

介護福祉士実務者研修 受講のポイント

—介護福祉士実務者研修を受ける皆さんへ—

令和 7 年 3 月

厚生労働省補助事業

実務者研修の実態把握に関する調査研究事業 検討委員会

内 容

はじめに	183
I. 介護福祉士実務者研修とは	184
1. 実務者研修の意義	184
2. 研修修了後の研鑽の重要性	185
II. 研修の各領域に関する学習のポイント	186
1. 領域：人間と社会	186
(1) 該当科目の種類	186
(2) 学習のポイント	186
2. 領域：介護	187
(1) 該当科目の種類	187
(2) 学習のポイント	187
3. 領域：こころとからだのしくみ	189
(1) 該当科目の種類	189
(2) 学習のポイント	189
4. 領域：医療的ケア	190
(1) 該当科目の種類	190
(2) 学習のポイント	190
III. 研修受講時の対応と心構え	191
1. 自己学習の進め方	191
(1) テキスト等学習について	191
(2) レポートの記載について	192
2. 研修を受講するうえでのポイント	194
(1) 研修での学びを理解する	194
(2) 実務(実践)とつなげた学習の重要性	194
参考資料	195
参考：別表5(法第40条第2項第5号の介護福祉士養成施設関係	195

はじめに

介護福祉士実務者研修(以下、「実務者研修」といいます。)は、「介護福祉士国家試験(以下、「国家試験」といいます。)」の受験要件です。皆さんのうちほとんどは、実務者研修の受講後に国家試験を受験されるのではないのでしょうか。国家試験受験のため、勤務の合間を縫って実務者研修を受講されている方も多いでしょう。

仕事をしながら450時間以上の介護福祉士実務者研修を受講することは簡単ではありませんし、受講費用も要します。

実務者研修は、介護福祉士として必要な知識・技術・倫理を学ぶものです。研修の受講は、自分の介護実践を振り返る機会でもあります。日頃の実践に知識がつくことで、これまでよりも自信をもって介護実践ができるようになるでしょう。また、自分が行った介護の根拠や必要性について、利用者やその家族、他職種にもっと的確に説明できるようになるかもしれません。実務者研修は、受講したみなさんが、介護の専門的知識・技術を学習することで、より質の高い介護サービスの提供ができるようになることを目的としています。

本教材は、皆さんが実務者研修を受ける時に参考になる情報が集められています。実務者研修の受講前、受講中、受講後、是非読み返していただき、実務者研修受講の意義を理解し、是非、皆さんの介護実践に活かしていただきたいと思います。

介護福祉士を目指すみなさんを、心から応援しています。そのために、本教材が役立つことを、心より願っております。

厚生労働省補助事業「実務者研修の実態把握に関する調査研究事業」検討委員会

I. 介護福祉士実務者研修とは

1. 実務者研修の意義

2007(平成 19)年に行われた「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正では、介護福祉士の資格取得ルート¹³のうち、実務経験ルートについては、「実務経験」(3年以上)に加え、新たに6か月以上の養成課程を経た上で国家試験を受験する仕組みとすることが定められました。この6か月以上の養成課程については、介護福祉士養成課程のうち、実務経験のみでは修得できない知識・技術を中心に構成されるものとされました。また、実務者研修は、多様な教育主体によって教育が担われる(科目単位での履修認定を認める)ことから、教育水準を担保するため「到達目標」(「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に関する指針について」別表5(法第 40 条第 2 項第 5 号の介護福祉士養成施設関係))。参考資料<P195～196>)を規定し、基準化されました。このように、実務者研修は知識と技術の双方を学ぶ構成となっており、根拠ある介護の実践において、大変重要な研修であるといえます。

また、実務経験ルートでは、実務者研修修了が国家試験の受験要件となっているため、実務者研修修了後、多くの方は当年度内に国家試験を受験します。前述の通り、実務者研修は実務経験のみでは修得できない知識・技術を中心に構成されており、受講者の皆さんには、介護福祉士資格取得後、実務者研修で学んだことを現場の専門職として実践し、介護の質を高めていくことが期待されます。資格取得のための学習であるとともに、介護実践の力をつける研修であることを意識し、実務者研修を受講いただきたいと思います。

¹³ 介護福祉士の資格取得ルートには、以下の3つの方法があります。

1. 3年以上の介護等の業務に関する実務経験及び都道府県知事が指定する実務者研修等における必要な知識及び技能の習得を経た後に、国家試験に合格して資格を取得する方法
2. 都道府県知事が指定する介護福祉士養成施設等において必要な知識及び技能を習得した後に、国家試験に合格して資格を取得する方法
3. 文部科学大臣及び厚生労働大臣が指定する福祉系高校において必要な知識及び技能を習得した後に、国家試験に合格して資格を取得する方法

2. 研修修了後の研鑽の重要性

国家資格取得後、介護福祉士は、様々なキャリアを歩んでいくことが想定されますが、その中で、介護の専門職として学び続けることが求められます¹⁴。介護福祉士を目指す受講者の皆さんが、実務者研修で介護に関する専門的知識・技術を体系的に学ぶことで、介護福祉士資格取得後の働き方を、皆さんそれぞれが考えていくことも、実務者研修の役割といえます。

現在、先行研究では、介護職員に多様なキャリアが存在することが明らかになっています。介護施設などでリーダーとして活躍する方、認知症や看取りといった専門的な介護の実践に特化する方など、様々なキャリアが存在するほか、介護職員においては、どのようなキャリアを自身が歩みたいかについて、キャリアの初期段階から考えていくことが重要とされています¹⁵。このため、介護福祉士資格取得がゴールではなく、取得後に介護福祉士として自らがどのようなキャリアを歩んでいきたいかという点をも考えながら、実務者研修を受講いただきたいと思います。

14 「社会福祉士及び介護福祉士法(昭和六十二年法律第三十号)」では、介護福祉士に対する知識及び技能の向上について、以下のように定められています。

(資質向上の責務)

第四十七条の二 社会福祉士又は介護福祉士は、社会福祉及び介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に対応するため、相談援助又は介護等に関する知識及び技能の向上に努めなければならない。

15 日本能率協会総合研究所(2022)、「介護福祉士資格取得後のキャリアアップと研修活用の在り方に関する調査研究事業報告書」令和3年度老人保健健康増進等事業、pp.194

Ⅱ. 研修の各領域に関する学習のポイント

1. 領域：人間と社会

以下、それぞれの領域における「(1)科目の種類」、「(2)学習のポイント」を記載していますので、参考になさってください。

(1) 該当科目の種類

「人間と尊厳の自立」、「社会の理解Ⅰ～Ⅱ」

(2) 学習のポイント

「人間の尊厳と自立」では様々な福祉の理念を学びます。現代の介護現場が抱える課題に、あなたが介護福祉士として取るべき「態度」を学びます。あなたの職場での身近な事例から理解を深めましょう。先輩の職員の方からもアドバイスしていただきましょう。

「社会の理解Ⅰ」「社会の理解Ⅱ」は、多くの法律・制度を学びます。まず、あなたの一番身近な職場の福祉サービスから学習を広げていきましょう。たとえば「訪問介護事業」に勤務していれば、サービス提供責任者や家事援助の業務内容などは具体的にイメージできて実践的な知識として熟知しているでしょう。

また、職場の訪問介護の業務マニュアルの巻末にはその根拠となる出典である「基準」「通知」が載っているでしょう。その「指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準」をみると訪問介護サービスだけではなく他のサービスも列挙されています。

こうしたイメージや、根拠となる「基準」を知ることで、次は基準と対比して通所介護の業務内容はどうなっているのかを学ぶことができます。さらには在宅サービスと対比して施設サービスや地域密着型サービスのルールはどうなのかという順に学びを広げて行きましょう。さらには身近な介護保険法と比較しながら障害者総合支援法を学ぶといったふうに身近な知識を元に学習範囲を広げましょう。

2. 領域：介護

以下、それぞれの領域における「(1)科目の種類」、「(2)学習のポイント」を記載していますので、参考になさってください。

(1) 該当科目の種類

「介護の基本Ⅰ～Ⅱ」、「コミュニケーション技術」、「生活支援技術Ⅰ～Ⅱ」、「介護過程Ⅰ～Ⅲ」

(2) 学習のポイント

① 領域全体の学習のポイント

実務者研修の科目構成は、基本的な内容を学ぶ「Ⅰ」と応用的な内容を学ぶ「Ⅱ」で構成されている科目があります。そのため、学習では、科目の構成を確認したうえで進めることが大切です。また、領域介護を学習する際は他科目(他領域)で学んだ知識や技術を関連付けながら学習するようにします。以下の内容は代表的な科目間のつながりを示したものです。

● 「介護の基本Ⅰ」と「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」(介護の実践価値の理解)

「介護の基本Ⅰ」や「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」は、「介護を実践するための価値」を理解するうえでつながりのある科目となります。例えば、介護の基本では、介護福祉士の役割、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方、介護福祉士の倫理などについて学習します。これらの内容は介護を実践するための価値を学習することと関連しています。生活支援技術で学ぶ基本的な技術などは、利用者の自立支援、利用者本位といった実践価値を実現するための方法として実施されます。そのため、生活支援技術で学ぶ基本的な技術やその根拠を学習するときは、介護の基本などで学んだ実践価値を踏まえながら学習するようにすると良いでしょう。

● 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」と「領域：こころとからだのしくみ」(心身の状況に応じた介護実践の理解)

「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」と「領域：こころとからだのしくみ」は、「心身の状況に応じた介護実践」を理解するうえでつながりのある科目と科目領域になります。心身の状況に応じた介護を実践するためには、対象となる人を生活者として理解することが大切となります。生活支援技術ⅠでICFについて学び利用者の生活の全体像を理解することは、生活支援の基盤を学習することに関連します。また、領域：こころとからだのしくみで学ぶ障害や認知症、慢性疾患などに関する知識は、障害などの特性に応じた生活支援を行ううえでの根拠となります。

このように領域介護に関する学習では、他科目で学習する知識を関連づけて活かすようにしましょう。

② 介護過程Ⅲ(スクーリング)における学習のポイント

介護過程Ⅲ(スクーリング)を実施するにあたっては、その前段階として介護過程Ⅰ・Ⅱを修了しておくことが必要となります。介護過程Ⅲ(スクーリング)では、利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について学びます。そのため、介護過程Ⅰ・Ⅱそれぞれで学ぶ、介護過程の基礎的理解や介護過程の展開の実際などについてしっかりと理解する必要があります。また、介護過程Ⅲ(スクーリング)では、知識・技術を総合的に活用し利用者の心身の状況に応じた介護を行うことが含まれます。実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できるようにしておくことがとても大切です。

介護過程Ⅲ(スクーリング)における学習のポイントを以下に示します。

● 他者理解と人間関係の形成について

介護過程の学習を進めるうえでとても大切なことは、利用者と介護職との関係形成です。介護過程のすべてのプロセスで重要となる視点です。介護過程Ⅲ(スクーリング)では、主に事例での学習となりますが、受講者は利用者に関心をもつ姿勢についても意識しながら介護過程の展開について学習するようにしましょう。

● 情報の意味を理解することについて

介護過程における情報の意味を理解するとは、「知識を活用してその情報の意味を理解する」ことです。知識を活用するためには、他科目で学んだ内容が必要となります。そのため、これまでの学習で使用したテキストや授業資料などを活用できるようにします。情報の意味を理解しようとする姿勢やその取り組みは、介護過程におけるアセスメントを行ううえで大切な一歩となります。

● 介護過程における思考過程を言語化することについて

介護過程では、その思考過程を最終的に文章として表現することが求められます。しかし、思考過程は、目に見えるものではありません。そのため、いきなり文章として表現することが難しい場合は、図やイラストなどを活用し自分の思考過程を可視化するようにします。情報の関連性や思考の流れなどを「→」などの記号を活用しイメージしやすくします。また、書き方のセオリーを学ぶのも良いでしょう。具体的には、テキストにある記入例などを参考にします。参考にするときは、アセスメントなどの思考過程が文章としてどのように表現されているか意識するようにします。もし不明な点がある場合は、講師にも質問や相談をし、添削指導を受けながら、繰り返し学ぶことも効果的です。

● 演習で根拠と実践を結び付けることについて

介護過程Ⅲ(スクーリング)で実施する演習の内容は、介護過程の展開における実施に相当します。演習は、介護技術の基本としてだけでなく、根拠に基づく実践として位置付けを学ぶと良いでしょう。ポイントは、アセスメントの結果と介護計画には連動性があることを意識することです。このことは、根拠に基づく実践につながります。また、演習で行う介助手順は、介護過程における「短期目標」を達成するための具体的な支援内容、支援方法のことであることを理解することが大切です。

3. 領域:こころとからだのしくみ

以下、それぞれの領域における「(1)科目の種類」、「(2)学習のポイント」を記載していますので、参考になさってください。

(1) 該当科目の種類

「こころとからだのしくみⅠ～Ⅱ」、「発達と老化の理解Ⅰ～Ⅱ」、「認知症の理解Ⅰ～Ⅱ」、「障害の理解Ⅰ～Ⅱ」

(2) 学習のポイント

領域「こころとからだ」のしくみで大切なことは、人体の構造と機能をおぼえ、順序だてて理解することです。人間の発達段階とそれに伴う機能変化や各器官のしくみや役割を知り、それらがどのように機能・連携し、あるいは障害や不全(異常)が起きた時にどのような問題(疾患や症状)が起こるのかを医科学的に一つずつ理解するようにしましょう。

各単語を覚えることはもちろん、関連している器官や機能をきちんと理解することで、疾患における症状を理解することにつながります。

具体的には、以下3点がポイントとなっています。

- ・ 解剖生理：体の成り立ち、各器官、脳の機能および神経系の種類と役割
- ・ 各疾患と各種症状
- ・ 発達段階の理解：エビデンスや各理論に基づいた介護支援の基礎となる知識

この領域の医学的知識や発達段階を知ることで、対象者を多面的にとらえ、身体的側面・心理的側面・社会的側面から支援することにつながり、アセスメント力が深く幅広くなります。

4. 領域：医療的ケア

以下、それぞれの領域における「(1)科目の種類」、「(2)学習のポイント」を記載していますので、参考になさってください。

(1) 該当科目の種類

「医療的ケア」

(2) 学習のポイント

医療的ケアでは、喀痰吸引、経管栄養法、救急蘇生法、感染防止策等の清潔操作に関して学びます。こころとからだのしくみ領域同様、医学的知識を学ぶため、主に出てくる単語は医学用語となります。これらは、医療的ケアを実施する介護福祉士のために作られた言葉ではなく、医師・看護師をはじめとする医学領域での共通言語となっています。そのため、意味をしっかりと理解していなければなりません。また、医療的ケアでのミスは医療事故となり、一瞬の間違いで対象者の生命を危険にさらしてしまう可能性が高いものです。それを回避するためには、用語の理解はもちろん、手技についても厳格な方法を身に着ける必要があります。生命に直接的に危険を及ぼす可能性のある「医行為」を介護福祉士が実施することを意識して学ぶ必要があります。

ポイントは以下 4 点です。

- ・ 介護福祉士が実施することのできる範囲の理解(歴史的経緯、対象者の状態等含む)
- ・ 呼吸器系と消化器系の医学的理解(※科目「こころとからだのしくみ」と重複する内容)
- ・ 各種疾患と症状の理解(※科目「こころとからだのしくみ」と重複する内容)
- ・ 滅菌と殺菌、消毒の理解(実技含む)

呼吸器系と消化器系のしくみをおぼえることは、科目「こころとからだのしくみ」と重複しており、分からない点は「こころとからだのしくみ」のテキストを確認するのも良いでしょう。また、滅菌をはじめとした感染予防策については、実技試験でもその知識の理解と手技が求められるため、しっかりと理解しておきましょう。

また、医療的ケアが必要な人とは、どのような身体的状態であるかを考えていくことでも「医療的ケア」の知識と技術の大切さが理解できるでしょう。

Ⅲ. 研修受講時の対応と心構え

1. 自己学習の進め方

実務者研修では、通信課程・通学課程ともに、受講者がテキストを読み込んだうえで授業を受ける形式となります。このような自己学習ができない状態で授業を受けることで、研修受講で本来期待される学習到達目標に達せない可能性が想定されます。十分に自己学習をしながら、講義を受講することが重要です。

(1) テキスト等学習について

自己学習では、テキストを活用し学習の準備と問題に対するふり返りをすることが学習を効果的にすすめるうえでとても大切となります。例えば実務者研修で多く利用されている e ラーニングシステムでは、一定の問題が設定されており選択肢の中から適切なものを選び解答します。ここで大切なことは、テキストなどを読み込まずに安易に問題を解答してしまわないようにすることです。問題には、科目名や問題テーマが書かれています。問題文を読み込むとともに、改めてテキストの該当ページを読み返しましょう。また、解答の正誤に関わらずその根拠や問題テーマに関連する知識を学ぶことも大切です。

介護福祉士実務者研修のテキスト学習を進めるためのポイントを以下に示します。

① 学習計画を立てる

テキスト学習では、どの部分をどのくらいの時間で学ぶのかを決めることや、週ごとの目標を設定するなどの学習計画を立てることが大切となります。学習計画を立てるためには、実務者研修カリキュラムを“知る”ことが重要となります。実務者研修カリキュラムについて把握し、勉強にかかる時間などを自分なりに想像するようにします。このときのポイントは、「きっとこのくらいだろう」と安易に判断するのではなく、なるべく正しく把握しようとする意識が大切となります。把握するうえでのポイントは、実務者研修の科目構成を確認すること、テキストの目次を確認し各章と節の構成について把握すること、各章の冒頭にある到達目標を確認すること、などがあります。自分が学ぶべき科目に関する内容について把握することが学習計画を立てるうえでの基盤となります。

② 要点を押さえる

要点を押さえた学習を行うためには、使用するテキストの特徴を確認し活用するようにします。実務者研修のテキストには、学習者が効果的な学習ができるような工夫や特徴があります。その工夫や特徴を知り、活用することで要点をおさえた学びができるのではないのでしょうか。具体的な特徴の例として、「各章に到達目標を明示している」、「学習の進行状況を確認できるように日付を記入できる欄を設けている」、「重要語句を色文字や太文字(ゴシック体)で明示している」などがあります。また、本文中に必要な応じて参照ページが示されているものあり、該当ページをみると、より詳しい内容や関連する知識などを学習することができます。

(2) レポートの記載について

実務者研修のレポートの目的は、学んだ知識や技術を整理・確認し学習内容の理解を深めることです。また、レポートを記載するなかで、学んだ知識を実際の場面にどう活かせるかなど考えることで、応用力を身につけることができます。実務者研修のレポートは、単なる課題ではなく、自分の成長や実務に直結する大切なものです。

介護福祉士実務者研修のレポート記載に関するポイントを以下に示します。

① 計画を立てる

レポート課題の提出期限を確認して計画を立てましょう。大まかなスケジュールを作成し、毎週の部分に取り組むかを決めておくと進めやすくなります。計画を立てるときは、課題に対して実施すべき事柄を把握すること、所要時間を見積もることなどが大切となります。また、課題に対して優先順位を立てることも重要です。特に最初は、見通しを立てることが難しいと思います。まずは、余裕をもって課題を実施し、自分の傾向を知っていくことが大切です。自分の傾向を知るとは、課題を行ううえで得意なこと不得意なことなどを把握することです。また、好きな科目やそうではない科目もあるかもしれません。自分の傾向を知ることも計画を立てるうえでとても大切な視点となります。

② 資料収集

課題の実施では、必要な資料や参考文献を集めて活用するようにしましょう。使用する資料は、講義で使用しているテキストや配布された資料などを活用するようにするとよいでしょう。課題を実施するときにはじめてテキストを読むのでは、効果的な活用はできません。普段の講義などから重要となる語句などにチェックを入れておくことや付箋などをつけておくことで、後で確認できるようにしておくことが大切です。

③ 課題を実施する際のポイント

実施するにあたり、まず、レポートの目的や到達目標などを確認しレポート課題の内容を把握しましょう。その後、課題の内容に関連するテキストや資料を読みながらメモなどを取り、大まかなアウトラインを作成します。アウトラインの作成では、課題に対する内容を書き出し自分が伝えたいことの全体像を把握できるようにします。アウトラインを書き出すことで課題と異なる内容についても確認・修正でき、内容を整理することができます。次に、アウトラインに従って実際に書き始めます。はじめは完璧でなくてもかまいませんので、まずは書くことが大切です。書きながら迷うことなどもありますが、まずは、最後まで書いてみましょう。書き上げた文章は、見直しをします。誤字脱字や内容の矛盾がないかチェックします。他人に見てもらいフィードバックをもらうのも良いでしょう。

通信学習での課題は、自分のペースで進められる利点がありますが、自己管理が重要です。計画的に進めて、良いレポートを作成できるようにしましょう。

2. 研修を受講するうえでのポイント

(1) 研修での学びを理解する

実務者研修では、450 時間以上の研修体系となっていますが、各科目は、その科目単体を理解すれば終わりではなく、科目全体を通して複合的な学習が大切です。また、20 科目全体を通して複合的に学習することで、介護を必要とする人の理解と、それがどのように介護として実践されていくかを理解することが大変重要です。このため、研修実施者から提示される研修全体のカリキュラムを理解し、研修を受講することで、最終的にどのような学びが得られるかを意識しながら受講しましょう。

特に通信課程の受講者においては、「介護過程Ⅲ」、「医療的ケア」の科目以外は教科書学習になることが想定されます。どのような順番で学習を進める必要があるか、研修実施者に確認のうえ、計画的に学習を進めましょう。

(2) 実務(実践)とつなげた学習の重要性

実務者研修での学習内容は、皆さんが勤務する施設・事業所での介護の実践をすることを前提に構築されています。介護実践→実務者研修での学習→介護実践のサイクルです。教科書や講義で学んだことを、実際に自施設・事業所で実践してみましょう。実践するなかで、新たな学習上の課題や疑問が生じたときには、研修実施者の講師や、自施設・事業所の先輩職員、また教育担当者等に質問してもよいでしょう。

参考資料

参考：別表5（法第40条第2項第5号の介護福祉士養成施設関係）

科目	到達目標
人間の尊厳と自立 (5時間)	○ 尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。
社会の理解Ⅰ (5時間)	○ 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
社会の理解Ⅱ (30時間)	○ 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○ 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○ 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○ 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○ 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。
介護の基本Ⅰ (10時間)	○ 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ○ 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○ 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。
介護の基本Ⅱ (20時間)	○ 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ○ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○ 介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。
コミュニケーション技術 (20時間)	○ 本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ○ 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○ チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォローアップ等)に関する知識を理解し、活用できる。 ○ 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。
生活支援技術Ⅰ (20時間)	○ 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○ 自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。
生活支援技術Ⅱ (30時間)	○ 以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 ➢ 「環境整備」、「移動・移乗」、「食事」、「入浴・清潔保持」、「排泄」、「着脱、整容、口腔清潔」、「休息・睡眠」、「人生の最終段階における介護」、「福祉用具等の活用」

科目	到達目標
介護過程Ⅰ (20 時間)	○ 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○ 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。
介護過程Ⅱ (25 時間)	○ 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。
介護過程Ⅲ (スクーリング) (45 時間)	○ 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○ 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○ 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。
こころからだのしくみⅠ (20 時間)	○ 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。
こころからだのしくみⅡ (60 時間)	○ 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○ 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○ 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。
発達と老化の理解Ⅰ (10 時間)	○ 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○ 老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。
発達と老化の理解Ⅱ (20 時間)	○ ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○ 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ○ 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。
認知症の理解Ⅰ (10 時間)	○ 認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○ 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ➢ 認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。
認知症の理解Ⅱ (20 時間)	○ 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○ 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。 ○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
障害の理解Ⅰ (10 時間)	○ 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○ 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○ 障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。
障害の理解Ⅱ (20 時間)	○ 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○ 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。
医療的ケア (50 時間以上)	○ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

介護福祉士実務者研修 受講のポイント
—介護福祉士実務者研修を受ける皆さんへ—

令和 7 年 3 月発行

厚生労働省補助事業

実務者研修の実態把握に関する調査研究事業 検討委員会

